

## 静岡県内企業、ベトナムでの事業展開に向けて貴重な一歩 —株式会社小澤土木及び株式会社橋本組によるベトナムでの圧入工法セミナー開催—

国際協力機構(JICA)は、2021年12月より、株式会社小澤土木(静岡県浜松市、小澤智久代表取締役)・株式会社橋本組(静岡県焼津市、橋本真典代表取締役)の共同企業体(以下、共同企業体)との業務委託契約の下、「ベトナム国サイレントパイラーを用いた圧入工法<sup>(注)</sup>によるアースダム・堤防の防災技術に関する案件化調査」を実施しています。

共同企業体は、ベトナムにてサイレントパイラーを用いた圧入工法の事業展開の可能性を探るため、ベトナムにおける貯水池・ダム湖の漏水対策工事の需要や施工技術の現地適合性、及びビジネス展開計画の策定などの調査を実施してきました。

10月14日に、調査の集大成として、ベトナムのバクカン省にて、農業農村開発省(以下、MARD)の行政官や地方省など総勢110名余りの参加を得て、最終セミナーを実施しました。

このセミナーでは、共同企業体によるサイレントパイラーを用いた圧入工法の概要説明や日本や第三国での類似工事の案件事例などに関する動画上映を行うとともに、調査の一部を担って頂いた現地の大学教授によるベトナム国内のアースダムの漏水の現状と課題及びパイロットサイト候補地に関する調査結果報告などがなされました。

セミナーに参加されたMARD水資源総局トウ副総局長より、「サイレントパイラーによる圧入工法は、複雑な地盤に対応できる技術としてベトナムに必要であり、近い将来、様々な工事に導入できるように、政府内での検討を促進すべきだ」との前向きな発言でセミナーは締めくくられました。

本調査は、来年2月に終了を予定しています。共同企業体は、この調査後もベトナムでの圧入工法の導入に向けてMARDなどベトナム政府との折衝を継続し、早期の事業化を目指します。

(共同企業体の各社は、SDGsの取り組みの一環として、ベトナムの防災対策及び経済発展への貢献を目指しています。ベトナムでは、約50年ほど前に建設された貯水池・ダム湖の多くに老朽化による漏水がみられ、最近では漏水を起因とした破損事故が多発しています。この事故により、周辺地域の住民の生活や農業などの経済に悪影響が及んでおり、ベトナム政府は喫緊の課題として認識しています。その対策として、共同企業体の有する施工技術「サイレントパイラーを用いた圧入工法技術」の導入が期待されています。)

(注) サイレントパイラーとは、(株)技研製作所が1975年に世界で初めて実用化した圧入工法の施工機械(油圧式杭圧入引抜機)。また、「サイレントパイラーを用いた圧入工法」とは、既製杭設置方法の一つであり、既に地中に押し込まれた杭を数本つかみ、その引抜抵抗力を反力として次の杭を油圧による静荷重で地中に押し込んでいく工法。



水資源総局 トウ副総局長(中央)による開会挨拶



最終セミナーの会場の様子



サイレントパイラーを用いた圧入工法による  
鋼矢板圧入工事のイメージ

(写真提供:共同企業体)

【関連リンク】

「中小企業・SDGs ビジネス支援事業」概要 [https://www.jica.go.jp/priv\\_partner/activities/index.html](https://www.jica.go.jp/priv_partner/activities/index.html)

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 中部企業連携課 担当：田村  
TEL:052-533-1387 FAX:052-564-3751  
E-mail : cbictps@jica. go. jp

日本の真ん中から世界へ  
JICA 中部



<https://www.jica.go.jp/chubu/index.html>